

震災に備える特別教育

—災害時の食事作り—

衛藤 大青 立松 洋子 野村 正則

Special Lectures for Anti-Earthquake Procedures: How to Cook During a Disaster

Daisei ETO Yoko TATEMATSU Masanori NOMURA

【要 旨】

別府大学短期大学部では平成23年の東北地方大震災を受け、同年より「震災に備える特別教育プログラム」を実施した。そのプログラム内で同短期大学部食物栄養科では「災害時の食事作り」をテーマに、震災などの災害が起きた際に比較的手に入りやすいものを活用し調理を行う方法や簡易的な濾過装置の作製法などについて講義を行ってきた。本稿では平成25年に食物栄養科が行った「災害時の食事作り」に際して、参加した学生にアンケート調査を行いその教育的効果を検証した。その結果、多くの学生にとって災害時の食事作りという特別講義が、新しい知識を得る機会となり、今後役に立つ講義であると感じていることを読み取ることが出来た。

【キーワード】

防災 教育効果 アンケート調査

はじめに

平成23年3月11日に起こった東北地方大震災は我が国の社会・経済や人々の暮らしに大きな打撃を与えた。この時に当たって大学人として、すでに被災している人々への支援のまなざしを持つとともに、現在大学に在籍している学生がこのような災害が発生したときに自ら生き延びたり、少しでも余裕があればその専門性を生かして社会に貢献するための教育を行うことが求められる。そこで別府大学短期大学部では学生の危機に備える能力を高めることを目的と

して、平成23年から「震災に備える特別教育プログラム」を実施した。本事業の一連の講義や演習を通して学生達に期待される効果は 1. 災害について学び、災害時の心構えを身につける 2. 短期大学部4科それぞれの専門科目によって期待され、必要とされる社会的貢献能力を身につける 3. 災害にあった人々の状態を知り、理解、共感を深め正しい対応の仕方を身につける とした。そこで本稿ではプログラムの一環であり2013年8月31日に食物栄養科が実施した「災害時の食事作り」に関して、参加者への教育効果の有無を、アンケート調査を元に検証した。

表1 アンケート用紙

別府大学短期大学部 防災食の特別講義に関するアンケート

1. 災害時の対応法について

①災害時の対応法について関心はありますか

1. 非常にある 2. 少しある 3. わからない 4. あまりない 5. 全くない

②災害時の対応法に関する貴方の知識は次のどれですか

1. 十分にあり 2. 少しあり 3. わからない 4. あまりない 5. 全くない

③災害に対する備えを行っていますか

1. 十分に備えてある 2. 少し備えてある 3. わからない

4. あまり備えてない 5. 全く備えてない

④災害に対する備えは必要であると思いますか

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 全く思わない

⑤今までに災害時の対応に関する講義を受ける機会がありましたか

1. 二回以上受けたことがある 2. 一回受けたことがある 3. 今まで機会はなかった

2. 災害時の食について

①災害時の食について関心はありますか

1. 非常にあり 2. 少しあり 3. わからない 4. あまりない 5. 全くない

②災害時の食に関する貴方の知識は次のどれですか

1. 十分にあり 2. 少しあり 3. わからない 4. あまりない 5. 全くない

③災害時のために食料の備えを行っていますか

1. 十分に備えてある 2. 少し備えてある 3. わからない

4. あまり備えてない 5. 全く備えてない

④今までに災害時の食に関する講義を受ける機会がありましたか

1. 二回以上受けたことがある 2. 一回受けたことがある 3. 今まで機会はなかった

⑤災害時の食を勉強する価値があると思いますか

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 全く思わない

今回の講義について

①今回の講習に参加することで、新しく得られた知識はありましたか

1. 非常にあった 2. 少しあった 3. わからない 4. あまりなかった 5. 全くなかった

②今回の講習は今後役に立つと思いますか

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 全く思わない

③今後も災害時の食について学びたいと思いますか

1. 非常に思う 2. 少し思う 3. わからない 4. あまり思わない 5. 全く思わない

④本日の講義を通しての感想をお聞かせ下さい

性別： 男性 女性

年齢： 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代

方法

1. 対象

2013年8月31日に食物栄養科が実施した特別講習「災害時の食事作り」に参加した食物栄養科1年生。

2. 調査方法

自記式のアンケート（表1）を用いて調査を行った。質問項目は 災害時の対応法についての知識、備えの有無 災害時の食についての知識、備えの有無 講義の効果についてとした。

結果および考察

1. 回収率

当日参加者44名中39名から回答を得られた(89%)。そのうち有効回答数は39枚であった(100%)。

2. 災害時の対応法についての知識

アンケートでは、まず災害が起きた際の対応法について質問した。「災害時の対応法に関心がありますか」の問いには、非常にあるが16%、少しあるが74%であり、全体の90%が災害時の対応法に関心を示していることがうかがえた(図1)。一方で「災害時の対応に関するあなたの知識は次のどれですか」の問いでは、わからないが20%、あまりないが26%であり、46%が災害時の対応に関する知識が十分ではないと考えていることがわかった(図2)。また「今までに災害時の対応に関する講義を受ける機会がありましたか」の問いでは、2回以上受けたことがあるは36%であり、1回受けたことがあるが28%、今まで機会がなかったが36%であり、半数以上の学生が過去1回以下しか講義や講習を受ける機会がなかったことがわかった(図3)。以上のことから、学生達の多くは災害時の対応法に興味を示しているものの、それを学習する機会は少なく、知識も十分ではない

と感じていることがうかがえた。

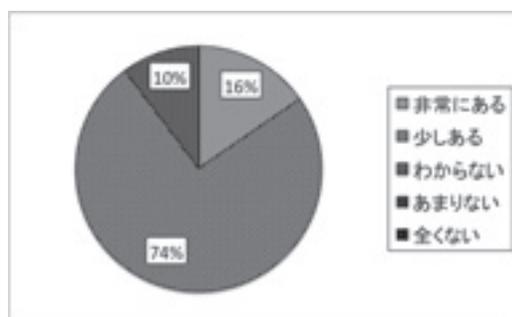


図1：災害時の対応法に関する関心の有無

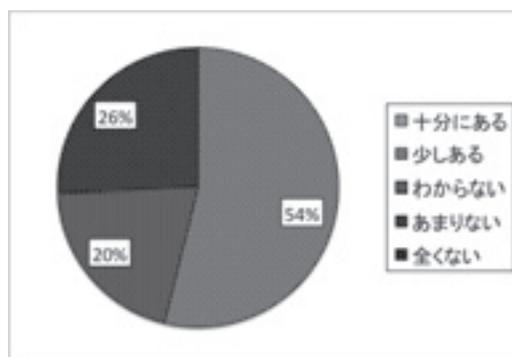


図2：災害時の対応法に関する知識の有無

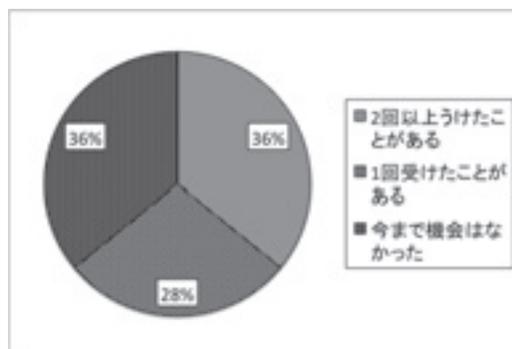


図3：災害時の対応に関する講義を受けた経験の有無

3. 災害時の食についての知識

次にアンケートでは焦点を絞り、災害時の食に関する知識について質問した。「災害時の食について関心はありますか」の問いに、非常にあるが33%、少しあるが64%であり、全体の97%が災害時の食について関心を示していた

(図4)。また「災害時の食を勉強する価値はあると思いますか」の問いでも、非常に思うが62%、少し思うが33%であり、全体の95%が災害時の食に関する知識に価値を見いだしていることがわかった(図5)。しかし「災害時の食に関する貴方の知識は次のどれですか」の問いでは、わからないが23%、あまりないが26%であり、半数近くが知識は十分ではないと感じていることがうかがえ(図6)、「今までに災害時の食に関する講義を受ける機会がありましたか」の問いでは、2回以上うけたことがあると回答したものは23%しかいなかった(図7)。これらのことから災害時の食に関する知識についても、学生達の多くが関心を持っているが、学ぶ機会は少なく、そのため知識も十分では無いと感じていることがうかがえた。

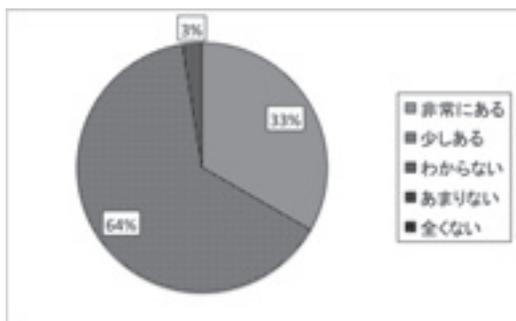


図4：災害時の食についての関心の有無

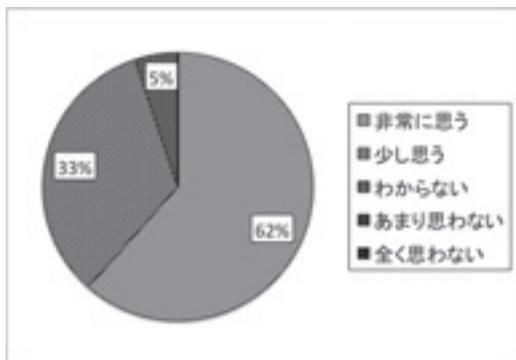


図5：災害時の食を勉強する価値の有無

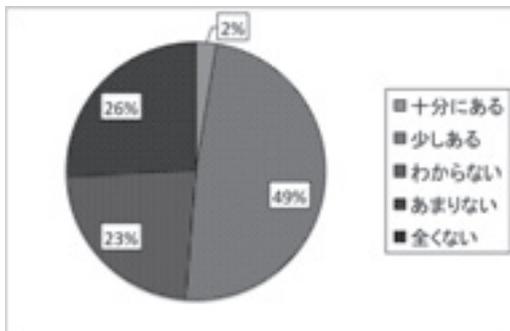


図6：災害時の食に関する知識の有無

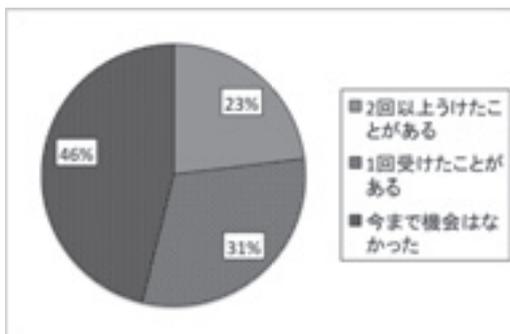


図7：災害時の食に関する講義を受けた経験の有無

4. 講義の効果について

アンケートでは最後に講義の効果について質問を行った。「今回の講習に参加することで、新しく得られた知識はありましたか」の問いでは、非常にあったが62%、少しあったが38%であった(図8)。これは前項の災害時の食に関する知識を問う質問で、知識がすでに少しあると回答したものや、災害時の食に関する講義を今までに2回以上受けたことがあると回答したのも、今回の講習に参加することでなにかしらの新たな知識を得ることができたということである。また「今回の講習は今後役に立つと思いますか」の問いでは非常に思うが72%、少し思うが28%であり(図9)、今回の講習は参加者の多くが今後活用することが出来ると感じる内容であったことがわかった。「今後も災害時の食について学びたいと思いますか」の問いでは、非常に思うが55%、少し思うが45%であった(図10)。これは災害時の対応法について関心があるかの問いや、災害時の食について関心

はあるか問いにある以外の回答をしたもの達も、今回の講義を受講することで少なからず災害時の食について興味を持ち継続的に学びたいと感じさせる内容であったことがわかった。

まとめ

今回のアンケート調査を通じて、学生の多くが災害時の対応法や災害時の食に関心を持っていることが見て取れた。一方でそれらを集中的に学ぶ機会は少なく、また知識に関しても十分に持っていないと考えている学生が多いことも見て取れた。食物栄養科が行った「災害時の食事作り」は、講義の効果についてのアンケート結果より、そのような学生達の知識欲を刺激し、今後も継続的に学びたいと感じさせる内容であったことが見て取れた。また「震災に備える特別教育プログラム」で設定した期待される教育効果のうち、「2. 短期大学部4科それぞれの専門科目によって期待され、必要とされる社会的貢献能力を身につける」についても、参加した多くの学生が新しく知識を得ることが出来、なおかつ今後役に立つと回答していた点から達成できていたのではないかと考えられる。

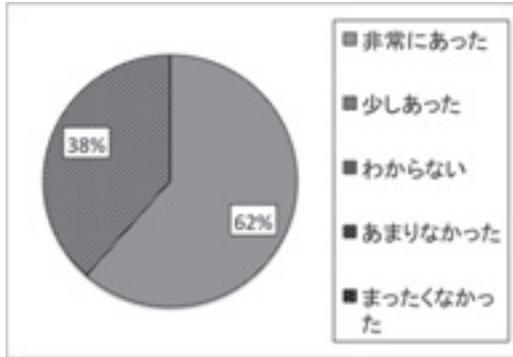


図8 講習に参加することで新しく得ることのできた知識の有無

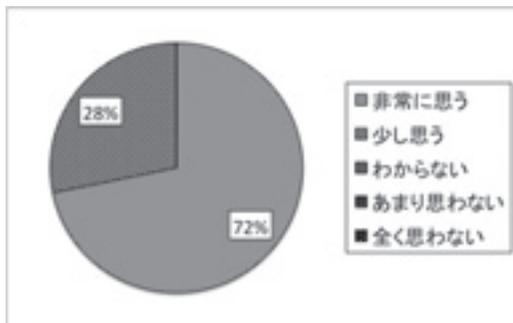


図9 講習が今後役に立つと思うか

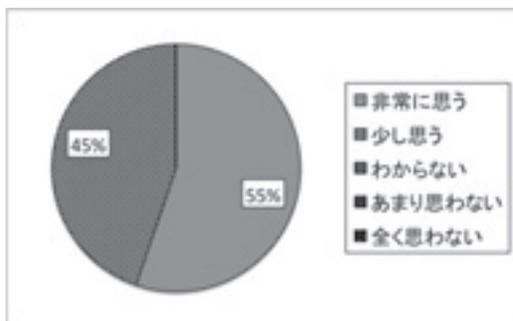


図10 今後も災害時の食について学びたいか

参考文献

1. 酒井隆, アンケート調査と統計解析がわかる本 [新版], 2013, 日本能率協会マネジメントセンター, 東京.
2. 安藤明之, 初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 [第2版], 2013, 日本評論社, 東京.